

**「航空機産業製造人材育成講座」開催のご案内**

このたび、あいち・なごやエアロスペースコンソーシアム委託事業として「航空機産業製造人材育成講座」を開催することになりました。　9月から12月までの4か月間、5回に亘り、三菱重工業株式会社、川崎重工業株式会社などから講師をお招きし、WEBにて開催いたします。　第1回目は構造材料としてアルミニウム合金の開発の経緯や最近の動向、航空機用高強度鋼についてそれぞれ有識者の方から幅広くご講演を頂きます。　どうぞ御参加ください。

中部大学　工学部　宇宙航空理工学科　主任

教授　苅田　丈士

**第1回講座　プログラム**

申し込み方法

****<https://srv03.isc.chubu.ac.jp/aa2022/>　から申し込みください。

必要事項をご記入いただき参加登録をお願いします。

申込期間　9月6日～9月26日

配信期間　9月6日～9月26日

実施方法 オンライン形式で実施します。

・各講師の方々の講演動画を、参加される方々にはネット接続してご視聴いただき

ます。配信期間は指定した3週間で、この期間内であれば何度でもご視聴いた

だけます。

・講演とほぼ同様の内容の資料を送付致します。

・尚、配信動画、送付資料とも画面キャプチャー、録画、録音、それらの再配布は禁止とさせていただきます。

対象 航空機部品の一貫生産などの生産高度化への取組を実施中またはお考えの企業や団体の皆様、関係する企業や団体の皆様

費用　 無料

講演1 「航空機用アルミニウム合金開発の歴史と今後の課題」

講師　超々ジュラルミン研究所 代表　吉田 英雄 氏

戦前の日本のアルミニウム産業の需要は航空機用材料がほとんどであった。その中で開発されたのが，世界に誇る超々ジュラルミンであった。戦前は欧米に対し，アルミニウムの製造技術，研究開発が遅れていたにもかかわらず，世界最高強度の合金開発を成し遂げることができた。この秘密をジュラルミン，超ジュラルミンの開発の歴史に遡って明らかにする。戦後は航空機の開発が禁止され，多くの技術者が鉄道車両，自動車，二輪車に移って行った。その中で，押出性に優れた高強度合金が開発された。これらの合金開発や今後の航空機材料の課題についても述べる。

講演2 「最近の航空機用アルミニウム合金の動向」

講師　株式会社UACJ　R&Dセンター　第一研究部　部長 箕田正氏

アルミニウム合金は低比重の特長から、輸送機構造材への適用が進んできた。1900年代初期に2000系合金、続いて1937年に7000系合金（超々ジュラルミン(ESD)）が実用化され、その後Al-Li合金、CFRPが実用化されている。ここでは従来合金（2000系、7000系）、Al-Li合金、CFRPとの性能比較とともに、航空機用アルミニウム合金の製造技術および最新の開発状況を紹介する。

講演3　「航空機用高強度鋼」

講師　日立金属(株)　金属材料事業本部　特殊鋼統括部 航空機エネルギー部

シニアアドバイザー 上原利弘氏

航空機用の構造材料の大半はアルミ合金であるが、脚などの高強度が必要とされる一部部品には高強度鋼が使われている。鋼の基礎および航空機に使われる主な合金鋼、高強度ステンレス鋼、マルエージング鋼などの鋼について種類、金属組織、熱処理、機械的特性、製造方法などについて概説する。

＊タイトルなど一部変更になる場合があります。ご了承ください。

○問合せ先　：　[AstroAero@gs4e.chubu.ac.jp](mailto:AstroAero@gs4e.chubu.ac.jp) 　　0568-51-1712　 内線4208　　担当：鈴木